

29 海のおかみ

ノーザン・ゲートのそばに おかみが住んでいた
それはそれは 大金持ちのおかみであった
おかみが産んだ大勢の息子たちは
みな外^とつ国の海へと駆り出された

あるものは深い海で溺死し 5
あるものは岸近くで溺死した
溺死を知らせる便りが届いて おかみはうんざり
それでもおかみは さらに息子たちを送り出した

おかみには 馬を飼う権利も馬具もあった
快適な^{ろばた}炉端も^{たばた}田畑も^{まきば}牧場もあった 10
息子らを白く泡立つ海原に 何が何でも送り出した
それはそれは つらい労働だった

異国の海で^{すなど}漁りをさせ
船で白波渦巻く大海を渡らせた
そして疲れ果てて異国の海から 15
息子らは帰ってきた

善良なおかみの息子らは帰ってきた
得たものはごくわずか
しかし 新しい未開の地での
武勇伝をたずさえて 20

過酷な戦場で結んだ
男どうしの固い契り
たがいになめあった
あの^{いくさ}戦の地獄絵図

息子らには見聞はたっぷりあった 25

だが手にした獲物は乏しい
命と引き換えに得たものも
また命のために売り飛ばす

息子らは命のかわりに失ったものを
また心願しんがんのものを得た話を 30
みんなあらいざらい語るが おかみはもううんざりと
炉のそばで こくりこくり居眠りするばかり

おかみの息子らは世界の果てまでも行く
まるで巨大な炉から飛ぶ灰のごと
満ち潮引き潮 時を選ばず 35
息子らは出かけてはまた帰る

(お召しとあらば 陽気に出かける
道なき道の危険もなんのその
賜暇しかを許され国に帰れば 安い恩給に満足し
炉端でゆるりと温まる) 40

あるものは瀕死の有様で
またあるものは生きた亡霊となって戻ってくる
おかみには屋根の梁はりを歩む亡霊たちの軍靴の音
鮮血したたる足音が聞こえるのである

祖国へと息子らは 七つの海の港から帰還する 45
あるものは生きて またあるものは死して
善良なるおかみのもとへ帰ってくる
それぞれ頭に祝福の手をかざしてもらおうと帰ってくる

(柗井幹生記)